

会議録

会議の名称	令和５年度 第５回西東京市生きる支援推進計画策定検討会議
開催日時	令和６年１月29日（月） 午前10時から11時
開催場所	田無庁舎 1階 102会議室
出席者	座長、D委員、F委員、G委員、H委員、I委員、J委員、L委員、M委員
議題	（１） 第４回議事録について （２） 計画（素案）について （３） その他
会議資料の名称	第２次西東京市生きる支援推進計画（素案） 第４回会議録（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
１ 開会 ２ 議題 （１） 第４回会議録について ●座長 修正希望があれば２月２日金曜日までに事務局に送付するように。 （２） 計画（素案）について ●座長 パブリックコメントでは意見が無かったということだが、詳細の説明をお願いしたい。 ●事務局 計画（素案）について説明 ●座長 本日は全員の方にご意見を頂戴したい。 ●事務局 本日も欠席のK委員からのご意見を紹介する。65ページの（１）分野横断的な取組のところで、庁内で自殺対策に係る部署間での意見・情報交換がされるとあるが、どこの部署でもまず話を受け止められるよう、全部署で取り組めるとよいと思った。また、68ページ（２）多様な媒体を活用した普及啓発のところで、評価指標が自殺対策強化月間を知っている人の割合になっているが、月間を知っているだけでは意味がないのではないかという意見が前回の会議で出ていたと思う。例えば、自殺対策強化月間を知っていて、かつ、月間内にメンタルヘルスについて関心を持つ人の割合という指標の方	

がいいのではないかという意見だった。最後に、コラムは、心の健康を保つためのヒントが得られ、イラストはほっこりできるイラストだと思った。はれはれっちともやもやっちの紹介をしてもいいのではないか、という意見をいただいた。

●M委員

先月、講座の中で、自傷、自殺問題という単元を取り上げた。その中で、ゲートキーパーという言葉を取り上げたのだが、カウンセリングに興味を持っている方々でさえ、知らない方が3分の1くらいいた。ゲートキーパーの啓蒙にもっと力を入れるべきだと体感した。対応策としてキャンペーンのときに、西東京市は若い方でも市報を見ている方が割と多くいるようなので、表紙に太字でゲートキーパーという言葉を書けば、なんだろうと関心を持つのではないか。グラフにもあるように、80パーセントの人が知らないという結果が出ているので、まずはゲートキーパーという言葉を知って、社会認知を広げていく活動をしていきたいと思った。

●D委員

たくさんの情報がまとめられて、分かりやすく拝見した。

72ページの重点施策で、ウェルテル効果についてのコラムが、若年層のところに書かれていると、人によっては自分には関係ないと考えて、少し認識してもらいづらいかもしれないと感じた。「特に、子どもや若者に影響が大きい」など、何か補足した方がよいかもしれない。それに関連し、「不要な詮索や推測をしない」ということは難しいと思った。人の心情として、知りたいと感じるものなので、ここも「SNSでの拡散をしない」と書いてあるところを、「不要な憶測に気を付ける」としたり、「こういった情報を拡散しない」としたりするなど、具体的にアクションとしてできることを検討してほしい。個人的には、その下の「つらさを感じるのであれば」のところが、市民にとって大事なポイントになりうると感じたので、「つらく感じるようでしたら情報から離れましょう」のところに★印にするのもよいと考えた。

3点目に、74ページの「生活困窮者、無職者・失業者」のところで、「社会的に排除されやすい傾向がある」という文言があるが、「取り残されやすい」「疎外されやすい」などの表現を使ってもよいのではないかと。

●H委員

とても読みやすく、理解しやすかった。先ほど意見が出たように、ゲートキーパーを啓蒙してほしい。

●L委員

今までの資料を見て、意見を少しずつメモしていたが、出来上がった施策を見て、とても良くできていると感じた。今までの積み重ねがあって、今年度このような皆さんの意見を基に、とても分かりやすくできている。特に63、64ページの目指す方向性のところで、図式化した基本施策の4つの柱や、重点施策で特に若年層、生活困窮者等に重点を置いて支援を優先させていくというところで、一つずつの方向性についても文章と図が一致していて、分かりやすかった。

私も何ができるかと考えたが、今現在は、しゃきしゃき体操を普及する活動をしている。私の相手は高齢者で、70代、80代の方が友達を誘って見えているので、孤立や孤独

を抱えている方もいるので、ゲートキーパー的な役割ができるのではないかと感じた。

私はカウンセリングの勉強をしたことがあるが、ゲートキーパーは初めて聞いた。一般市民がゲートキーパー的な意識で周辺に目を配ることを広めるために、市報に載せる、パンフレットで配って周知することが大切だろう。私は65歳まで働いていて、忙しくて、市報は全く見なかった。何か目を引くレイアウトなど工夫してもらえるとよい。

● F 委員

資料を拝見して、これまでの委員会で色々な意見が出たところをしっかりと修正していただいております、とてもバランスよく書かれている計画だと感じている。また、コラムの効果もあると思う。

65ページの分野横断的な取組で、より具体的に計画が実行されていくと良い。普及啓発で広く市民の方という点では、発信力のあるところに、横断的に連携の仕掛けを作るなど、繋げて行ってほしい。例えば、高齢の方ならば地域包括支援センター、子どもなら子ども家庭支援センターなど具体的に実行できるような機関に働きかけてほしい。それぞれの対象に応じた情報提供を、適した機関に働きかけていただけると、よりこの計画が効果的になるのではないかと考える。

● G 委員

66ページ、地域活動団体・関係機関との連携のところで、ゲートキーパーがあまり知られていないということで、例えば、ほっとネット推進員向けに、講座を定期的と呼びかけるなどもよいのではないかと。参加できなかったとしても、ゲートキーパーという言葉を知ってもらうことができると思う。

「自殺対策従事者の心のケア」のコラムについて、私も過去に体験したことがあったので思うのだが、支援者を支援する仕組みは必要である。支援者同士のつながりの場で、自分たちのセルフケアは大事であり、それがあってこそその支援。一人では難しく、仕組みとして行われることで質が担保される。市民の方向けのことももちろん大事だが、関係機関に関することも大事である。

● I 委員

非常に見やすく、私も知らないことがあり、そういうこともできるのだなと理解することができた。自殺要因が記載されているページに、職場環境の変化や過労など、かなり仕事に関わる問題が大きな円で示されているところを見ると、仕事にまつわる原因が大きいのだなと実感した。

主な取組のところで、自殺防止キャンペーン等において連携を図ると示されている。気持ちが落ち込んでいる方のサインや対策を、市内の事業者さんたちが知っているか、できているのか。ゲートキーパーも知らなければ、そういう役割をどのように担っていくのか。キャンペーンのような一過性のものではなくて、浸透させるような取組としてやっていく必要があると考える。

● J 委員

学校としては、子どもたちの自殺予防のところで、主な取組の中に、子ども家庭相談があるが、対応しきれていないという印象である。相談件数が多く、職員の数が少ないことや、教育相談もなかなか継続しないとか、対応してくれた職員の方と合わなくて行

かなくなるということも多い。充実させてほしい。

●座長

私からは、評価のところが見えづらいと感じた。大きく2点あって、1点目は、LINE相談の登録数を増やす、目標値5000とあって、ここはよいが、82ページの、相談件数を増やす、というところ前にも意見させていただいたが、相談件数を増やすということが果たして良いことなのかどうか、悩んでしまう。前にも例を挙げたが、虐待の相談件数が増えるということが、良いことなのか。評価として十分に機能するかやはり難しいのではないかと感じる。ここを削除するかということではなくて、「増やす」という目標値の中には、解決する、就労につなげるなど、別の表の中には実際に相談をされて就労につながるという解決の具体的な数値目標が掲げられているので、悩ましいところではあるが、一言欄外にあってもよいのではないかなと思う。「減らす」「増やす」だけで、評価としては十分ではないというのが私の意見である。具体的に増えたのであればなぜ増えたのか、減ったのであればなぜ減ったのか、どんなところが改善ポイントか、どこが良かったか評価する仕組みがとても大事であると思う。例えば、自殺者数が減ってよかった、だけで終わってしまうのではなく、どんなところが評価できるのか、また、増えたときには何が要因なのか分析する必要がある。例えばそれについての評価対策部会を立ち上げるなど、何かしら具体的な評価のPDCAサイクルの新たなPにつなげる最後のAが書かれていないところが気になる点である。

●事務局

評価については現行の評価の数値になっているので、相談件数が増えればいいのかというところはお指摘の通りである。現行計画の評価をそのまま継続するというのではなく、改めて今回の計画の評価として考え直したいと思う。別の評価をところどころ加えているところである。

●座長

ここの数値目標云々ということではなく、ちゃんとした評価の枠組み、単に評価と照らし合わせて、達成できた、できないというだけでは不十分だと思うので、客観的に評価できるような体制を取るべきである。こういった部会などで評価の専門家を入れたりしている自治体もある。客観的な色々な立場の方からの意見が改めて評価のところでも必要ではないかと感じる。

●F委員

評価の部分では前回の委員会のときも意見があったと思うので、評価の前段階をモニタリングしていく計画みたいなものは長期の計画が進行していく中で、大切だと思う。今から難しいとは思いますが、振り返るという意味でも、検討していただくと良いと感じた。

●座長

もし今回意見がないということであれば、私と事務局に一任いただくということで同意いただきたい。委員の皆様から、職場に戻られてから気づくことがあればいつまでに連絡が必要か。

●事務局

2月2日（金）の、会議録と同じ期日までにお願いしたい。

●座長

今日を含めて5回の会議はこれで終わるが、今後の流れを事務局から説明いただく。

（3） その他

●事務局

お集まりいただくのは今回が最後である。今後の流れは、本日いただいた意見と2月2日までにいただいた意見を踏まえて修正し、最終調整をする。完成した計画は、市長へ報告する。健康づくり推進プランの冊子は3月中に完成の予定である。出来上がり次第、委員の皆様へ郵送する。

以上